

雲出 北陵月報

No. 481

令和7年9月30日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

吹奏楽部・合唱部全国大会

アベック出場決定!!

高等学校の部金賞受賞

3年連続17度目の全国大会出場決定

第66回全日本吹奏楽コンクール中国大会

於 8月25日 周南市文化会館大ホール

課題曲…III マーチ「メモリーズ・リフレイン」/伊藤士恩
自由曲…楽劇「サロメ」より 7つのヴェールの踊り/R.シユトラウス

3年連続の全国大会出場を目標に、生徒達は朝早くから夜遅くまで練習に励んだ。練習では苦勞の連続であったが、3年生を中心に部員達は努力を重ねて本番に臨んだ。本番当日は、練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい演奏で観客を魅了した。年々中国地区の学校のレベルは高くなり、どの団体が全国大会へ推薦されるもおおくないほどの好演奏が続いた。その中でも本校は高い評価を得て金賞を受賞し、目標としていた3年連続17度目となる全国大会の出場権を得ることができた。全国大会では島根県、中国地区の代表として更に良い演奏・活動ができるよう、変わらぬ精進していきたい。また、これまで献身的にサポートしていただいた保護者の皆様をはじめ、卒業生や関係者の方々に對し、部員一同心より感謝致します。(顧問 原田 実)

合唱部

高等学校の部金賞受賞

全国大会出場決定

第92回NHK全国学校音楽コンクール

於 9月7日 中国プロボクシングコンクール

於 9月7日 中国プロボクシングコンクール
はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ
コンクールの歌唱規定人数は40名以内で

あるが、本校合唱部は高校の部員25名全員で本番に臨んだ。数的な劣勢は否めないながら本番ステージでは、練習でやってきたことを遺憾なく発揮し、ホールいっぱい北陵サウンドを繰り広げ歌い切った。結果4年ぶり10回目の金賞をいただくことができた。全国コンクールへの切符を手にするのができた。全国のレベルを視野に、更に高みを目指して表現の精度を上げていきたい。

第64回島根県合唱コンクール

於 8月24日 安来市総合文化ホールアルテピア

県合唱コンクールは、中学生部員が新たに加わったり、課題曲では初めてラテン語のポリフォニーの曲に挑戦したりと、NHKコンクールの時とは違った意味での緊張感を感じながらの本番であった。本番ステージでは普段の練習通りの演奏をするのができ、金賞をいただくことも、中国大会への切符を手にするのができた。まだまだ改善すべき点があるので、基本に戻って、更に音楽の質を高めていきたい。

高等学校の部門Aグループ金賞受賞

全国大会出場決定

第64回中国合唱コンクール

於 9月20日 広島市JMSアステールプラザ

中学生、高校生部員27名が参加し、課題曲と自由曲の2曲を演奏した。特に課題曲で演奏したパレストリーナの「聖なる日」は4声が模倣しながら音楽が展開していく形式で、歌う際の隊形も工夫しながら本番では日頃の練習の成果をしっかりと発揮することができ、結果金賞をいただくことも全国大会への出場権を得ることができた。しかしながら課題も多く、全国大会までに、更に

全国大会出場を決めた中学生と高校生27名
全国大会出場を決めた中学生と高校生27名
全国大会出場を決めた中学生と高校生27名

奏を目指していきたい。(顧問 布野浩志)

吹奏楽部

第38回全日本マーチングコンテスト島根県大会

於 9月21日 カマアリーナ

本年度は、イギリスの女王であったヴィクトリア女王をテーマとして「ラ・レィヌ・ヴィクトリア」という作品を本校のために編曲していただき、マーチングに取り組んだ。8月下旬からは本格的に練習を再

開し、約3週間程度という短い練習時間だったが、生徒達はよく努力し、本番では素晴らしい演奏演技を見せ、会場を魅了した。結果、金賞を受賞し、中国大会への出場権を獲得した。10月に広島で行われる中国大会では、島根県代表として演奏演技ができるよう、また全国大会に出場できるように、引き続き精進していきたい。(顧問 竹内康貴)

令和7年度 学園祭

テーマ 『Beyond imagination ~想像以上の創造を~』

9/1 文化祭(文化講演・ステージ発表・弁論大会) 9/2 文化祭(模擬店・クラス企画) 9/3 体育祭(出雲ドーム)

学園祭 総合の部		
第1位	3年4組	
2位	3年2組	
体育祭		
第1位	3年2組	
2位	3年4組	
3位	中学生B(中2,中3)	
弁論大会		
最優秀賞	杉本 凪 (1-2)	副賞
優秀賞	落合 稀音 (3-5)	木次
ポスターコンクール		
最優秀賞	森崎菜々恵 (3-4)	
優秀賞	藤原 小雪 (3-6)	
クラス企画		
中学生	第1位	3年6組
高校3年生	第2位	3年2組
高校2年生	第1位	2年3組
	第2位	2年4組
高校1年生	第1位	1年4組
	第2位	1年3組



★文化講演
講師 おばたのお兄さん様

★弁論大会

本年度の学園祭は、出雲だんだんとまるとアリーナ、本校、出雲ドームを使用し、盛大に開催された。文化祭は1日目、吉本興業所属の芸人おばたのお兄さんを講師にお招きして文化講演を行い、前後で高校2年生企画を実施した。午後から本校にて弁論大会をライブ配信で行った。2日目は、中学生、高校1・3年生、生徒会企画と工夫を凝らした催しとなった。3日目は体育祭を出雲ドームで開催し、大いに盛り上がった。

女子ソフトテニス部

島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月13・14日
於 浜山公園テニスコート

優勝 落合 遥(23)・森田早貴(24) ペア
 2位 今田 心(13)・水永成実(13) ペア
 3位 井上心々奈(23)・牛尾真緒(12) ペア
 B 16 曾田珠凜亜(23)・谷 心愛(12) ペア

○大会総評
 新チーム最初の公式戦で上位を独占できたのは良かった。新人戦に向けて更に精進していきたい。皆さんの応援有難うございました。(顧問 金森 快)



優勝した落合・森田ペア

男子ソフトテニス部

島根県高等学校ソフトテニス選手権大会

時 9月13・14日
於 浜山公園テニスコート

7ペアが新人戦でのシード権獲得

2位 富岡光輝(23)・川原 真(24) ペア
 3位 三島綾太(22)・山下柊人(25) ペア
 高野幸大(23)・仲津想大(23) ペア
 B 8 高木映瑠(24)・木村一心(13) ペア
 B 16 河野穂希(23)・三上瑛大(25) ペア
 佐藤宏祐(14)・金森剛士(23) ペア
 杉本 凪(12)・倉本晃汰(22) ペア

○大会総評
 優勝を目指し挑んだ大会であったが、一歩届かず悔しい結果となった。この経験を生かし、新人戦では団体・個人とも優勝できるようにしっかりと準備していきたい。当日はたくさんの方に応援に来ていただき有難うございました。(顧問 佐々木雄志)



卓球部

全日本卓球選手権大会(ジュニアの部)

時 9月12・14日
於 島根県立体育館

〈男子シングルス〉
 2位 三好蒼空(22) 波多間怜偉(13) (男子ダブルス)
 優勝 三好蒼空・金丸 陽(22) 組
 2位 福田健人(25)・波多間怜偉組
 ○大会総評
 2年ぶりに全日本選手権ジュニアの部の出場権を獲得することができた。本戦での入賞を目指して、更なるレベルアップを図っていきたい。(顧問 古瀬泰之)



ダブルス優勝の三好・金丸組

野球部

島根県秋季高等学校野球大会

時 9月13日
於 浜田市野球場

出雲北陵 3-15 江津・江津工業・浜田水産

○大会総評
 新チームになって初めての公式戦であった。選手達は、一人ひとりの役割を理解し、最後まで諦めず、粘り強い試合を展開したがあと一歩及ばなかった。新チーム結成以降、日を追うごとに成長していく選手の姿に、来年度の飛躍を期待したい。当日は遠方の開催でありましたが、球場に足を運んでいただき有難うございました。(顧問 畑 宗一郎)

テニス部

島根県テニス新人大会

時 9月13・14日
於 石見海浜公園・益田運動公園

〈男子シングルス〉
 B16 渡部悠真(22) (男子ダブルス)
 B 8 渡部悠真・高橋竜也(12) (女子シングルス)
 B16 石原麻帆(23) (女子ダブルス)

○大会総評
 8月末の出雲地区予選から地道にコツコツと練習した成果が県大会で実証されたことは、実に素晴らしい。生徒は上位を目指したいと思うようになったので、更に精進したい。(顧問 石川剛巨)

陸上競技部

第71回島根県高校新人陸上大会

時 9月20・21日
於 益田

原 泰成(22) 棒高跳 5位
 高橋優澄(25) 二年男子 5000m 6位
 高橋昂聖(23) 二年男子 5000m 8位
 大野 蓮(22) やり投 8位

○大会総評
 今大会は夏の練習の成果が十分に発揮され、大半が自己記録を更新するともに4名が入賞した。また、久しぶりに出場した400mリレーもバトンが上手くつながり、今後への期待を感じることができた。トラック競技とフィールド競技のバランスもよく、来季の県総体では6位入賞を成し遂げ中国大会出場を目指したい。(顧問 別所美喜子)

ダンス同好会

出雲神話まつり

時 8月23日
於 大津神立河川敷公園

神話まつりのステージイベントに1・2年の12名で出演した。暑い中多くの方に本校のダンスを観ていただくことができた。学園祭に向けての練習と並行しながらの制作だったが、部員達はそれぞれの課題と向き合い踊ることができた。応援に駆けつけていただいた保護者の皆様、有難うございました。(顧問 水谷円香)



写真部

令和7年度撮影技術大会

時 9月5・6日
於 三瓶国立青少年の家

大会は東京工芸大学から講師を招き、撮影の基礎を学び、ワークショップで技術を向上させることを目的としている。今年度で20年以上の長きに亘り本大会の実現に尽力されてきた東京工芸大学名誉教授である内藤明先生が正式に退任されるということになった。とても名残惜しい気持ちではあったが、お蔭様で内藤先生最後の大会に相応しい実り多き大会となった。本校写真部員達は非常に熱心に作品制作に取り組み、楽しんでワークショップに参加していた。この経験を糧に撮影技術の向上に励み、写真を通して視野を広げ、自らの世界観を表現できるレベルに到達してもらいたい。(顧問 村上 学)



生最後の大会に相応しい実り多き大会となった。本校写真部員達は非常に熱心に作品制作に取り組み、楽しんでワークショップに参加していた。この経験を糧に撮影技術の向上に励み、写真を通して視野を広げ、自らの世界観を表現できるレベルに到達してもらいたい。(顧問 村上 学)

美術部

美術課題発表展

時 8月31日
於 本校美術棟



一学期に制作した授業作品や部活動作品、夏休みに制作した自由制作の新作を中心に展覧会を行った。運営から受付まで生徒が主体的に活動し、各自の真摯な取り組みが観た人に伝わる良い展覧会となりました。(美術科 石倉 正)

第64回島根県高等学校音楽コンクール

時 9月10日
於 グラントワ(益田市)

本校からはピアノ部門へ1名、弦楽器部門へ1名、声楽部門へ10名、金管楽器部門15名、木管楽器部門へ23名の計50名が参加した。参加生徒は素晴らしい演奏を披露し、結果は次の通りとなった。

- 金管部門 1位 神蘭夕彩(26)
- 2位 柴田 華(24)
- 3位 大國朝也(36)

- 木管部門 1位 宮本桃子(25)

○弦楽器部門 3位 宮本桃子(25)

その他、各部門で本年も多くの生徒が金賞を受賞するなど、多額から指導いただいた音楽コースの先生方、応援していただいている地域の皆様、保護者の皆様のお蔭であり感謝致しております。今後とも変わらず精進していきたいと思っております。変わらぬご支援賜りますようお願い致します。(音楽科 竹内康貴)

一斉書写

時 8月27日
今年度2回目の全校生徒による「一斉書写」を実施した。黙想から始まり、墨を磨り、各々が集中して取り組むことにより、学校生活における日常の落ち着きや授業に臨む心構えを整えることができた。生徒達は緊張感のある雰囲気の中、貴重な時間を過ごした。

保育実習

時 9月9日
高校3年生普通コースの保育系列選択者が出雲市内3箇所の幼稚園、保育園で保育実習を行った。当日はあいにくの雨で屋内のみの活動となったが、各園の日程に沿って子ども達と一緒に様々な遊びを行った。また、各園の先生方の温かいご指導のもと、生徒達が事前に準備していた遊びやお話の発表などもさせていただき、貴重な経験となった。お世話になった実習施設の皆様にお礼を申しあげます。

高校2年生・中学生による除草作業

時 9月5日
今年度3回目となる校地内外周の除草作業が実施された。今回は高校2年生と中学生全員によるもので、各クラス全員によるもので、各クラス全員の担当箇所を草取りや落ち葉集めを行った。生徒達は残暑の中、熱心に作業を行い、気持ちの良い環境となった。

進路講話(進路選択とキャリアデザイン)

時 9月8日
9月8日(月)、本校1年生を対象に進路講演会を実施した。進学希望者・就職希望者問わず全員が参加し、「進路選択とキャリアデザイン」をテーマに講師の長尾真一先生よりご講演をいただいた。講演では、自らの将来像を描くことの大切さや、社会の変化に柔軟に対応できる力を身につける必要性について具体例を交えてお話しいただいた。生徒達は、自分の興味や



強みを見つめ直し、今後の学習や学校生活の取り組み方を考える貴重な機会となった。講演後の感想では「進路に向けて計画的に行動したい」「自分の将来を主体的に考えていきたい」との声が多く聞かれた。

吹奏楽部 体験入部

時 9月14日
於 本校黎明ホール
本年度第3回目となる吹奏楽部の部活動体験を開催した。県内外から57名の中学生に参加いただき、本校吹奏楽部の日頃の練習を体験していただいた。今回はマーチング体験で動作の基礎練習と行進曲を使った簡単なドリル演技を行った。参加いただいた中学生と本校吹奏楽部員にとって有意義な時間となった。

秋のオープンキャンパス開催

時 9月21日
8月の夏のオープンキャンパスに続き、今月は秋のオープンキャンパスを実施した。夏と同様、模擬授業・受験講座を実施し、その後、部活動体験を実施した。中学校でも部活動体験はもちろん、入試問題に挑戦したり、試験管に虹を作ったりと、中学独自の行事も実施し、多くの小学生の皆さんにご参加いただいた。

中学校

卓球部

全日本卓球選手権カデットの部島根県予選大会
時 9月6日
於 カミアリーナ

【男子シングルス】

- 優勝 清水寛生(中2観)
 - 2位 今福龍司(中1観)
 - 3位 金田悠生(中1新)
 - 4位 U-14
 - 2位 中司良心(中2世)
 - 3位 岡本悠希(中2世)
 - 2位 中司良心・岡本悠希
 - 大会総評
- 右記の結果により、U-13の部およびU-14の部で11月に広島県で開催される全国大会への出場権を獲得した。(顧問 相場翔太)

出雲科学館 理科学習(中学2年)

時 9月9日
於 出雲科学館
今回は「植物の体のつくり」とはたらき」をテーマとした、出雲科学館の実験室にて班別活動による実験実習を行った。まず、光合成が葉のどこで行われるかについて確認を行い、その後、オオカナダモの葉のプレパラートを作製し、双眼生物顕微鏡観察を行った。その後、10分生光をあてたオオカナダモをヨウ素液ヨウ素ヨウ化カリウム水溶液)を利用した後で、染色し、顕微鏡観察を行った。更に、光合成での水の流れを確認するため、赤色の水で染色したアスパラガスと菊の茎をミクロトームで薄く切り、道管の様子を顕微鏡で観察した。

生徒達は真剣に取り組み、「ミクロトームの使用法」「双眼生物顕微鏡の使用法」「プレパラート作製方法」そして、実際の「植物細胞の観察」を行い、植物の体のつくりとはたらきについて、楽しく、深く学ぶ貴重な機会となった。

保育体験学習

時 9月16日
3年生が家庭科授業の一環として、出雲市内3箇所の幼稚園、認定こども園で保育体験実習を行った。生徒達は園児達と鬼ごっこなどの運動遊びや虫取り、稲刈りといった活動と一緒に、いろいろな年齢の子供達と関わり方や発達の特徴について学んだ。短い時間ではあったが幼児と触れ合う貴重な経験となった。お世話になった幼稚園、こども園の皆様にお礼を申しあげます。



令和7年度 第21回少年の主張出雲市大会優良賞受賞

時 9月8日
於 出雲市役所
弁士 白根洗太(中3徳)
演題 「多様性を認め合う社会に向けて」
今年も市内の15校の生徒が熱弁をふる

った。本校代表の白根は、社会における多様な生き方について、自身の経験をふまえて発表した。弁士、審査員、保護者、各校の校長先生、引率の先生方を前に、ジェスチャーを加えながら自分の思いを伝えた。今回の貴重な体験を今後の中学生生活に生かして欲しいと思う。(担当 別所美喜子)

男子バスケットボール部

第6回島根県U15バスケットボール選手権大会
中部地区1次予選会
時 9月6・7日
於 出雲市総合体育館
1試合目 本校 出雲二
2試合目 本校 三刀屋
ブロック決勝 本校 68-52 DP-START
優勝 県大会出場決定
○大会総評
チーム一丸となって優勝することができた。県総体で勝てなかった分、来月開催される2次予選会ではベスト4以上になれるように頑張りたい。ご声援有難うございました。(顧問 多々納厚比古)



女子バスケットボール部

第6回島根県U15バスケットボール選手権大会
中部地区1次予選会
時 9月6・7日
於 出雲市総合体育館
1試合目 本校 IZUMO DREAMS
2試合目 本校 河南中
3位決定戦 本校 51-40 Luminous
3位 県大会出場決定
○大会総評
IZUMO DREAMSへのリベンジを果たせず悔しい敗戦となったものの、チームとしての成長を感じられる面も見られた。県大会では上級生が残るチームにも果敢に挑み、勝利を掴みたい。(顧問 和田拓真)



作品と研究

令和七年度 学園祭

校内弁論大会 最優秀賞

『言葉は鋭い凶器』

杉本 凪(1-2歳)

皆さんは言葉遣いについて深く考えたことがありますか。僕は言葉遣いが荒くて後悔したことがたくさんあります。

僕が初めて言葉に対して違和感を覚えたのは、中学二年生の時でした。中学一年生の時は何も考えずに発していた言葉、それは、

「キモイ。うざい。」

などの相手を傷つける言葉でした。家でも親に反抗して暴言を吐くときもありました。部活に疲れ、帰ってくるのは七時すぎ。ハードな練習から帰ってきた僕は、

「何もしたくない」

「疲れた」

などの言葉をよく使っていました。そして親に何か言われるたびに、「話しかけんといてよ。疲れたって言ってるじゃん。もううるさい。」

その時はいつも反抗してばかりで、言葉を交わすだけで腹を立てていました。それでも親からかけられるの

は、
「じゃあ、やっておくれ。今日もお疲れ様。よく頑張っているね。」
といった温かい言葉ばかりでした。

中学二年生のある日、自分の発した言葉に後悔することが起きました。それはお兄ちゃんの誕生日でした。お兄ちゃんと遊ぶのではなく友達を優先してしまって、お兄ちゃんには、「お兄ちゃんと過ごすより友達と過ごしたほうがいい。」

そう言ってしまったのです。友達と遊んでいるときも後悔していました。暴言を言ってしまったけど、やっぱりお兄ちゃんが大好きでした。家に帰り、お母さんの前で泣いてしまい、この時から自分が発言する言葉を少しずつ考えるようになりました。

数か月が経ち、お母さんの誕生日が来ました。その時、お母さんからあることを伝えられました。

「凪が小さいとき、お風呂から上がったらず二枚の手紙が置いてあったよ。」

それは、僕とお兄ちゃんが置いた手紙でした。小さい頃はサプライズが大好きで、いつも手紙を書いて置きました。そしてお母さんが手紙を開くといつも、「お母さん大好きだよ！これからも頑張つてね！」そう書いてあったそうです。その時僕は、

中学生になってから感謝が減つていくことに気づきました。いつも部活ができていたり、帰ればご飯ができていたり、部活で汚れた服も次の日にはきれいになっていました。当たり前じゃないことに感謝もせず、愚痴や暴言を吐いていた今までの自分の行動をとっても後悔しました。

中学三年生最後の大会。中国大会で全国大会の切符をつかみ、お母さんに、

「本当にありがとう。いつも味方になってくれてありがとう。」
そう伝えることができました。

現在、僕は高校生になり、家を離れて寮生活を送っています。お母さんが仕事を終わらせた後に毎日ご飯の準備や洗濯をしてく

たかと考えると、本当に感謝しかありません。僕はたまに家に帰るとき

には必ず手伝いをするようにして、「ありがとう」の言葉をかけていま

す。今でも家族に対する言葉遣いを誤るときもありませんが、そういうことを言ったらだめだったなと反省し、気をつけて過ごしています。

いまこの話を聞いて

いる皆さん。家族に対する言葉、友達に対する言葉遣いはどうですか。僕は、言葉というのはナイフよりも鋭い凶器だと感じています。見えないところから鋭く突つたものが、見えないものが他の人の心を刺しているのです。そうした行為に自覚がない人もいます。SNSだとそれが、何万、何十万と刺してくる。そう考えたら、あなたは耐えることができますか。きっと難しいと思います。ですが、私達はこのような世界を生き

ているのです。言葉遣いについても一度自分の心に問いかけ、考えてみませんか。

今月の
1枚

令和8年度愛鳥週間用ポスター島根県コンクール特選

定守古都乃(2歳)

